

しゃくなげ

学校の教育目標 志をもち 仲間とともに創りだす生徒



節目の行事をチャンスに日常を高める

校長 福井敏彦

1・2年生白川デイキャンプ、3年生修学旅行、全校では中高校長会連絡協議会など、非日常の行事が続きました。志をもち、仲間とともによりよい活動を創る節目の機会となりました。

自分の役割を果たすことのよさ

白川デイキャンプで何が楽しかったかを聞いたところ「自分たちで釣ったマスをさばき調理したこと」と答える子が多くいました。非日常の体験は、それ自体ワクワクすることです。さらに「自分で行う」楽しさを感じ取る体験ができたことは貴重です。豊かな体験となりました。

3年生修学旅行も日程の多くが班別行動です。人から与えられた楽しみでなく、ワクワクを自分で育む活動ができました。

これらが充実した活動になったのは、日常から自分の役割を果たそうとする構えがあったからです。お互い自分のできることをきちんとやりきった結果「自分もみんなも楽しい」姿が生まれました。

非常時に問われる日常の取組の真価

修学旅行初日は台風接近と重なり、その時の状況をもとに判断し活動を決定しました。素晴らしかったのは、一人一人が人任せにせず指示を理解しようとしていたこと。しおりにメモして書き込む姿はその象徴です。思い込みで自分勝手に動くことが全くなく、安心して指示が出せました。

東京班別研修を終えた1日目、ディズニーランドを終日満喫した2日目、いずれもホテルに着いたのは21時を過ぎていました。疲れていたと思いますが、当たり前のように金銭管理、係会をこなしていました。「何のために行うのか」普段から意識して取り組んでいることがわかる姿でした。

日常のよさを見つめた今こそ成長のチャンス

可茂地区中高校長先生約30名を迎え、授業の様子、生徒会の取組発表、合唱、グループ交流を行いました。落ち着いた授業姿勢、わかりやすい生徒会発表、質の高い合唱など、日頃の活動のよさを認めていただく場となりました。さらにグループ交流ではこんな姿がありました。

◆「合唱が嫌いな子にどんな声かけをするの?」と聞かれ、煌貴先輩が「合唱が得意な子が楽しむ」と答えていました。(阿部心美さん) ◆あいさつは大きな声で元気よく! がいつでもよいわけではなく、その場所や状況に合わせて会釈にしたり、声の大きさを調整したりすることが大切だと言われました。一番大切なことは、誰よりも先に自分から先がけあいさつをするということです。自分から相手にすることが大切だと思いました。掃除は週1回でこんなにきれいにできるのかと言われました。皆で協力したり、日頃から見つけ掃除をしたりすることがきれいな校舎につながると言いました。(渡邊璃乃さん)

他校の校長先生に質問され回答する中で、認めていただいたよさについて深く考えたり、さらによくなる頑張り方を見出したりすることができました。「日常を大切にすること」を公約に掲げている生徒会執行部・委員長、信任した生徒たちにとって、今まさに「成長のチャンス」です。